



俳諧御傘  
一

5
6627
1





八五  
6627  
1

龍鶴法華

序

龍鶴法華の巻の初めにありては  
小乗の法を説きしに  
よりしては法華の法を説きしに  
は道に非ざるを説きしに  
乃ち法華の法を説きしに  
法華の法を説きしに  
法華の法を説きしに  
法華の法を説きしに  
法華の法を説きしに  
法華の法を説きしに



<2002-16811>

第一









らんわんわんわんわん一團に  
てんてんてんてんてんてん  
かかかかかかかかかか  
さかさかさかさかさかさ  
さかさかさかさかさかさ  
かさかさかさかさかさかさ  
かさかさかさかさかさかさ  
かさかさかさかさかさかさ  
かさかさかさかさかさかさ

能楽の傘

伊



あし 連小一座一句乃  
相まねて淋よま  
二あそびてく〜殺入り〜む  
大古上古中古雑古百代古  
今集まるとの句も二句若  
肉とあま〜はつあ〜へ〜ま  
んよ通とてあ〜古の古人  
古の古の古の古の古の古の  
敷のあ〜今〜はつあ〜はつ  
次三句あ〜む〜ふ〜ふ〜  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
上右乃右の字と右の右人

乃教の悔り歎くもむむ乃  
字の間も三句をくくく  
乃分てまゆへー同云乃と  
集乃古の字といひ乃と  
かうせ古教の古れ字とい  
悔りきぬ乃とくくく乃何  
乃くく乃めえや昔云乃今  
の二字の後にてい集乃乃  
名附基後乃のめ今今れ  
との集をとりて終る乃  
古教のいめ今も乃と  
乃教くこと云集乃乃乃  
し唯今乃よりき乃乃乃  
亦小を集乃乃乃乃乃  
乃事乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃

高

乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
二も乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃

儀

乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃

池

乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃

傳ふさしく人君の名をふあ  
ひかへしつゝもあらず水もよ  
もろしきゆゑ人偏に沈三句  
乃知し

命

命終るまじく志ふよまじく  
人君命の二句内之命に玉  
乃法形をさるるし忠乃知ま  
は玉乃を二句去し又忠の意  
るまじく志乃玉の法もまじ  
と命の迷懐りしるるかな

稲葉

いふよの二句入一稲葉ハ  
三乃知しつゝもあらず稲  
あらず電乃字あまよまじ  
小の祿二二句去し稲葉あり  
いふ光形をさるるし美濃乃  
いふ山稲田稲葉あり  
稲よまじつゝ稲乃字形を  
さるるまじ入一あまじつゝの  
句も稲乃稲よのひのま  
あまじつゝ稲三乃内まじ  
稲葉も同稲よの中付句  
稲の稲中つゝもあまじつゝ負  
まの稲よまじつゝ入稲君の稲  
三乃内いふもれ名正まじ稲  
乃まじつゝもあまじつゝ  
くま稲よまじ



伊勢乃神

とつてくみあふ  
るりあり照

神といひくハクもあはれと  
名神り名はよれとハハ顔  
るりといふを物なりおとり  
あまのあやまわこ名はあ  
とたよあし伊勢の神と  
まのまてら神文一ねをり  
色くまへ一神流りも天  
照神とあしそとつや天照  
る神といふまへ一守まらと  
いふへ一伊勢とつて國乃名  
わらもねを久つを物流  
又人名り名の伊勢とつせの流  
つを流るつせのつを三自  
流るつせのつを二座一  
乃あまへり守

いほこのつら

つらくあま  
まへり守ね

あまへり守ね乃神院と  
まへり守ねとあつて  
まへり守ね乃神院のつら  
このつらとあつて乃神院  
乃神院とあつて乃神院  
いせとあまと海にれぬ  
おまへり守ねのつらと  
あまのつらとつらと  
とつらとつらとつらと  
つらとつらとつらと





もろくもぬめくもたなぬく  
色一燈より一白の清あくと計の  
物をさくく今一白をさし清水  
の清あくと一白をさし何もなま  
わたり守岩橋あまもさうり  
石の字紙あくと一白をさし  
清あくと連方清あくと一白を  
つる白のあまも守岩橋乃阿ら  
石乃字紙あくとぬ相もあま  
執事乃石あくと一白をさし橋一わ  
ていり橋あくと一白をさし守  
山敷りわたり守あくと一白を  
らさこの岩あくと一白をさし水  
よわると守岩あくと一白をさし  
も岩三乃内之清祇し非あ  
也舟乃字紙あくと一白をさし  
舟の岩あくと一白をさし

放生

放生 八幡乃系に林も放生  
川あくと守あくと水をさるり  
生敷り二白あくと生敷り  
清あくと放生あくと放生  
らと物をさくく一も放生  
とも放生川も放生あくと  
も放生あくと放生あくと  
え物をさくく放生あくと  
物をさくく放生あくと  
る一連の二白乃相をい放生  
二白あくと放生あくと放生  
不覚乃放生乃放生あくと  
乃放生あくと放生あくと

さんハ後すし三事ニ此准之  
政を川とんりハ此秋非親系  
とめくも下りしと信し生類よ  
もさうと母居るくす

家風

この家風の所他の代  
とり海との同しあつこと  
先程の所如し二句風神よ  
も二句をこの風神と一風  
本宿野方おし風と云ふよ  
ハ三句をこの家風の字よりハ  
面をゆふし

家

連ふまへくく句の物  
わよ一語を離れハ後  
おるんくく句もも物  
おれし面をくくく句も  
と知る

家

この家風の事ハ  
と産とらふまわれは家ハ  
乃肉

家とお家

又家ハ家とらふ  
この家と替へよ漬句わくし  
もくや家をとわらくく句  
ハさくくく句もわらくく句  
と居るよ塩く

いふのみのみ

又天鬼  
屋根余  
何ともま目回柱乃まふ乃  
肉乃く

入ね 乃字あみの字二句

又河がしめらにわたり乃字

いづく 二句をさるる一

一はくまこととて言ふこれの七句

去の漣よのいづくいづくの

まの内今一そへてあつて乃

乃物と云いづくいづくの

りまよるも物といふいづく

いづらんそあひいづくい

皆二句をさるる一

物と何あそとるその類の

字もさるるいづくいづく

さるる漣の連なりあを物

と漣よの七句をさるる

いづく 一乃乃物と漣よの

二句をさるる一

りたるにたるる乃乃の物

り二句をさるる

いづく 二句をさるる一

とさるる乃乃のいづく

と無事とさるる乃乃のいづく

百約よ一乃物と漣よの

乃乃のいづくをさるる二

一乃乃のいづくをさるる

連なりもさるる漣よ

も今一乃乃のいづく

さるる乃乃のいづく

二の物と

誰かあけをくくくい  
せんたる中とせりぬあしとん  
上二句もへし事事も中乃  
白くは今一もまこのは事  
物をあふりくやうに甲へ  
いふせんいせんいひく  
誰かあけをくくくい  
あしとんと始  
乃あしとんいせんととん  
里のみとくくく二のれ  
誰かあけをくくくい  
物をあふりくやうに甲へ  
いふせんいせんいひく

い く 矣乃字をくく  
ふにがせいしんく  
おれは付句をくく

おれは付句をくく

い くら 日次乃日一  
二句ま  
あしとん月日れ字  
ま

い くに 連はく  
誰かあけをくく

偽よ 二句ま  
誰かあけをくく

い にくも 二句乃  
誰かあけをくく

生 命よ 命二句ま  
誰かあけをくく

い にくも 二句乃  
誰かあけをくく

多相も二百まで

いららへら海らる 二句きこ志  
ぬら小う

まはついららも二句え

**指書** ねとねらふて天像よ  
へ不極極約うーまふ

きうらへら書あ乃字よあ面と

極約乃はす片衣のはす片あて

まはついららく二句まははす片

ねとははららて書ははす片あて

はす片本等よ一切不極約さく

はす片の字さうけは極約片の

人極小あす女極小の文ま

うままはららら極約書あて

極約六段のいる片今一ま

極約小あすのまははららら

まはついららとらねをさくふら

**いまひら** 難と地極約雷

天像うきうららへら光の字

まはついららと極約あひらら

て雷電まへうら

**衣書** 乃衣のむま

物は依其衣二まははらら

まははら書よ極約極約のま

ぬららららら極約うらまふら

まははら書よ極約極約のま

ぬららららら極約うらまふら





も居下りしゆへ今寸落  
物もあつて今ゆゑぬんて  
いひしゆり句もゆへに兎角  
句解小あつてゆへにゆへに  
里端ハ物物し一既末ゆへに  
不<sup>と</sup>平<sup>へい</sup>海<sup>うみ</sup>あつてゆへにやめん  
ぬめのはなをさけし合馬な  
三人のおあつての道理をも  
はうくあつてゆへに或月乃ん  
よ叶<sup>よ</sup>なる人成<sup>なり</sup>なり

### 福送

福送し送を志<sup>し</sup>また  
ふかやうよ福乃面<sup>なり</sup>平

ことあつてゆへにゆへにゆへに  
新が居下りあつてゆへに  
三念のむしゆり乃肉<sup>なり</sup>又和歌  
あつてゆへにゆへにゆへに  
遠月<sup>とんげつ</sup>ゆへに柳<sup>りゅう</sup>ゆへにゆへに  
柳のまひゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
らも物<sup>もの</sup>ゆへにゆへにゆへに  
田舎<sup>いんや</sup>ゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに

ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに

ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに

西の海は漁の漁大し地まら  
いさつたつとくわをうへく  
漁火もくへし川よのあさつ海  
をよめくも海を船あくも  
あつて地も海あつてもた  
火よあつてく不吉のうれえ  
とまのれえ海人不吉

いさつたつとくわをうへく  
初雅  
わうきのみ

けくまもくわのくす

いさつたつとくわをうへく  
いさつたつとくわをうへく

なつたつとくわをうへく  
なつたつとくわをうへく

た 唐大さくくわをうへく

今一まへし海大も二君  
内し目らん乃成へわをうへく

今一まへし海大も二君

衣裳とくくわをうへく

いさつたつとくわをうへく  
いさつたつとくわをうへく

いさつたつとくわをうへく  
いさつたつとくわをうへく

あつたつとくわをうへく  
あつたつとくわをうへく

あつたつとくわをうへく  
あつたつとくわをうへく

あつたつとくわをうへく  
あつたつとくわをうへく

いさつたつとくわをうへく  
いさつたつとくわをうへく

哲宗と云くは乃よヤ整びと  
作もいひゆらぬといふ  
もくく哲宗と云くは乃よ整びと  
云くは乃よ

生田と云くは乃よヤ事と云く  
又森のクハに

隠きよも亦ハ付けてハ新  
玄徳ハも亦ハ同一

泉 友ハも亦ハ付けてハ和  
泉國ハ非ハ亦ハ也ハ若クら

乃ハも亦ハ付けてハ中  
乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友

色 乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友

乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友

乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友

乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友

乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友

乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友

乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友

乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友

乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友

乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友

乃ハも亦ハ付けてハ友  
乃ハも亦ハ付けてハ友



後蒙

ほむえんくほむえん

稲荷

三月二十一日

泉友

多しなる泉もな

諸

橋

橋の連よ一乃物され

今一あらし

新

因乃新居の因と

百官よ因様司くわいおと  
はりこと侍友人の  
因とらふ白の

新居とらふ詞ハ二又あのみ

一ハ新居乃事し今ハ科

人さし科とも春生さし

て新あらしとらふ詞ハ

因ハあらしともく

と春生新とらふ詞ハ

小七日ニ七らふと新

たわもおも因ハ

新乃字と讀よらわ

あらしとらふ詞ハ

と又さしとらふ

つふらとらふ詞ハ

とらふとらふ詞ハ

新居のつこふ

ハ付くゆへに

中あふたあし

葉

極 しん 林と連方より一層二句より  
まゝと詠ふの二句と入  
上句下句とぬき返す人  
とも不苦但おぬ風色たぬ  
紅葉とよの文字きたの句に  
わくしは乃句よのたひひ  
不事なるれ

去書

るのゆき 花乃書今  
連中もあはぬわの句

去ぬ

うら さめとつふ百約  
て詠物よの去ぬ村

ぬこさめわたり小行をうら  
さめと二あるやうなる人

去家

ゆえうらると詠物  
なすくもさめと一也

詠よの詠家と去家とと  
よさく今一行をうら

去乃さゆりもひ二乃内  
連中よの去風くと

去風

二又去乃風との字  
を入くも二乃中とわ

詠乃の字を不入く二  
まのの字を入く二句の

と入くつる由と詠物よ  
去風二去乃風行をう

て一と二句と入く  
あゆみぬくと詠よとむ

三句詠うらると入く

へり

上句下句各二句

いほ道あはくも今一くく  
上三句と入一と海りの  
事

正月

一初式より初め

ちきく一産之句乃その  
此と勝月正月と数  
讀く今一くく一産田句  
たわ及冬同初月  
八おとくくくくく  
くはくくくくく  
此と勝月正月と数  
乃事と初式をくく見  
は人おとくくくくく  
くくくくくくくく

三日月一と明二と空くま

くぬり那と能乃之日月ま

るくく此のまの之ヶ月今二

あはくく明きくくく出婦よ

地乃まこれ明今二わろこ

えれも能乃ま明二わろこ

春と春

あ句ま同云能

去婦と云くく海とくく同春

ち七句ハ能給もぬくく春

是不私云首法不結也法  
橋ととの能給よまみを入





あり花を雲と見たりも  
雲を花と見たりも  
世乃雲と見たりも  
世乃雲と見たりも  
世乃雲と見たりも  
世乃雲と見たりも  
世乃雲と見たりも  
世乃雲と見たりも  
世乃雲と見たりも  
世乃雲と見たりも

飛乃瀧

正死に新式の内

類も由りも之の極り能  
なり新式よりあり極り能  
をを新式よりあり極り能  
をを新式よりあり極り能  
をを新式よりあり極り能  
をを新式よりあり極り能  
をを新式よりあり極り能  
をを新式よりあり極り能  
をを新式よりあり極り能  
をを新式よりあり極り能

水也よ極りも  
水也よ極りも  
水也よ極りも  
水也よ極りも  
水也よ極りも  
水也よ極りも  
水也よ極りも  
水也よ極りも  
水也よ極りも  
水也よ極りも

至しし新しき仕代との為の  
屋上は誤約事とし今案紀  
略しく記し主約の元  
滝と云ハ源乃おとく此源も  
とも又元乃ららり更く為  
子滝をとも又元乃中より  
為子滝をとも子滝より  
山橋の初より久保  
雲井より源乃乃白糸  
色赤い為源乃乃白糸  
より元乃ららりと元乃滝と  
りとも一編より心ゆらり  
ことあうらるんこと  
雨よりの源乃乃元乃  
源乃乃源乃

元乃波

正乃し水廻り  
三句し但て依句  
神波乃をハ非正元乃白浪の  
くまよ似あつたをり  
極物小あつた

元乃雲

正元乃極物よこ  
句より物よ元乃  
雲乃元極物よあつた

元乃

元乃乃字よ  
元乃乃字よ  
二句元乃の字よ三句風神  
より二句元乃乃字よ  
より元乃乃字よ

元乃風

元乃乃風一但元乃  
元乃乃風一但元乃

二のり一と申ぬと教よ  
うくひしあらし

ま乃日 とつふにさうきん  
あらし

永交日を終交日と云ふ

楊妃 妃人備非祚祇  
曲しりあしう治よ

花を踏ふ句に 聖山と号  
ふとひ

ても 膝よあふ寸たふひ  
とふ字入ともさう寸は

多ひ あふ花をん多神  
ふとも膝し

花 あふ句終中三すして  
る一守句あふり面八句

乃る よふとぬ事し又物初  
のま下句あふもくろし

く 寸又独吟るれし十之  
句めささ登うく面し初た

あ あふ終中三乃外八句  
内をぬ事しとふは終中三

花 あふもくもくろし  
花と

花 と斗も正花  
花と

花乃ちらに 梅乃ちらに  
を梅能いふ

梅 梅紅葉末葉末乃ちら  
い面をを梅ふと流雲とら

三十三

ちるふと句まじ

花乃ちるふに 義乃花乃

月乃との花乃のちるふに

ふしと句

花乃ちるふけの歌しと

況わしと花のけも

もまの陰乃まの漢し

花のあま 花乃

あま句

花乃非 花乃

中花ると後よましく

雑しを何と正花さ

極花よ二句あり同

るうと花の非と

るの極乃花を

へと義とれと

非乃句あり

非乃句あり

花乃 花乃

とる況わし

たうに死ししをわくしる詞

正死とあるへし但に依り

りしつらり死やうとつる詞の

きりひやう新式よまけま

しとつるしつる新式の死のこ

とくされし正死とつる新式

しつるまよらり極相よ二句

場へいししつるやうとつる詞

なるよめしつるもけりしつ

正死とつる成りしつるもけり

と死しつるしつる詞とひつる

いふれし正死とつるもけり

ふも一義たりしつるもけり

字あれし正死とつるもけり

まに死しつるしつるもけり

しつる詞の難くゆへにこれ

は新式のいふ死とつる

てまよしつるもけり

依りし正死とつるも成る

しつる

と死しつる

あまの死とつる

いれし極の死

義乃死乃新式よ二句ま

極相よ二句ま

も成る

死のまよ

死乃新式乃

乃む乃しつる

極相よ二句ま

正死とつる

死乃新式乃







をらゆ事もはらひ乃事  
白れせんれくむつり  
正花よるるうへいま極  
物よ二乃もあへり

正乃乃りし  
正花よ此と極物  
よあふ又あふ

衣敷よりり紙をよゆり  
花乃字より二乃ましあ成  
く海より物より

花乃乃  
正花し極物し  
糸の湯の花入よ

えあり又傳乃極を入と  
それをも時々の事よ乃花  
をものりかよ筆電のり  
れをまよも極物しとあり  
物極よりりりりりりり

花のり見回

花四  
正花し極物し  
又あふし花四し極物

花  
正花し極物し  
非正花の葉花し極

花堂  
正花し極物し  
よ二乃まし花乃字より

よ二乃まし花乃字より  
よましし二乃まし花乃字  
よりいふれし二乃まし又花  
そのとふ名あもわら依為  
極正花より極物より  
よる人より使名は乃花堂

いふ花にさういふ花を院と云ふ  
難し極物よまらぬは言ふ  
りし寸の心もよめ入るは  
非君不也入傳

死車 正死と云ふは死車  
乃るなり

死軍 正死と云ふは死軍  
家と楊貴妃と云

お死あくおひあそ  
終るなりと云ふ

死山 死山と云ふは死山  
あわむ神およむ

三の字を嘆くふらふら  
三の字を嘆くふらふら  
三の字を嘆くふらふら  
三の字を嘆くふらふら

あつと云ふは死の  
去場入ると死の  
乃死の意は乃死の  
中死と云ふは死の  
いふは死の意は死の  
善と云ふは死の  
死山の名は死の  
死の院は死の  
死の名は死の  
死の院は死の  
死の名は死の

非品似影

花の音

神乃音人つゝあま  
連ふあつたを極

非乃時らうさあつた

花の音

とらふは神乃音  
はり音人つゝあま

非乃時らうさあつた

花の音

信乃乃あつた

正月表餅はあつた

てわりあつたあつた

はつたあつたあつた

あつたあつたあつた

花小を神はつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

よ姨捨を未だうわらわを此き  
ぬと心の終入一はかひ付  
合よぬもくもくめく寸草  
よりのささいふささるる  
白山とてふよの雪を紙舟へ  
とちりしし白山をともけり  
誰とてゆいあふ乃たふさ  
富士の雪よけくも雪紙  
けくもくけくしし寸草  
よめく自余れりよあけ  
まへし

花ふれねえ

花に難し  
人傳

花田

花田乃昔しあるときにいさ  
花ふれし枯くはくくあ  
難し極くも夜敷くも  
あしは

餅花

花に難し  
二句し

花のあはれ

花に難し  
人傳

花のうさぎ

花に難し  
人傳

花のあはれ

花のうさぎ

花に難し  
人傳

きくくは次は花乃字より  
あしは

正花よりしめへし極細く  
も二のり入し

しるまは 花乃のまよはれと  
はれ鼻よあゆふ  
皮し

花入花納 正花を拵し  
其具のふれ

花乃の目されしま  
も極細くし

花主金魚 花乃繪あはれ  
がまりあつら

あつら繪よくさ  
て極細くし

花乃のしを正花より  
正花よりし極細くも二の

花乃の極細くし

花乃の 雜し正花より  
と極細くし

花下子 非正花より  
寸花といふまあり

とも極細くし

茶のしめ青 茶も花  
さけをそ花

花乃のしを正花より  
とも極細くし

花乃のしを正花より  
とも極細くし

花乃のしを正花より  
とも極細くし

花乃のしを正花より  
とも極細くし

とらふいふ也 正花を物と  
まはあらん

極物よあり候新なり

花火 正花を物とまへり  
他と船の煙と新なり

極物よきううもれ

花うつち 正花を物とまへり  
あり寸とまへり

あり寸と入るものよ極へり寸

花つと花 正花と雜と極物  
小ニとまへり

繪小ある花 正花と極物  
極ものり

あり寸とまへり

花つと まへ極物と正花  
あり

花つり 係乃事と雜と  
正花を物とまへり

極物よあり寸

花つ 小鼓よあり正花よ  
まへりともまへり

寸極物よあり寸

花をゆ 正花と極物  
はひ極物の

種乃花をゆあり候ははは

まははははははははははは

まへりありありありあり

正花よあり寸とまへり

寸極物と二句と入るあり

ひまへりたぐみ花ゆつと  
乞也雜物と極物と正花よ

なりまにぬし植物おもぬこ  
ふよのたより乃振葉ふよの  
おまたりをながめく死なから  
次とるも同おし物乃むを  
あつたのまよあつた正むよ  
もあつた入物もあつた  
植物乃あと同

花乃宜安

正むしまに植物も  
又むのえん  
急乃河のりもも正むし植  
物よあつた難し見ぬよ死ま  
路のまに

葉字

葉の葉作の葉お  
下篇文句こあはむ  
式一葉田句の物乃てま  
おまのりまにぬし植物おもぬこ

一葉よあつたこの葉と  
おまの木の葉乃らひこあま  
も葉一葉ふとくく葉お  
葉もみから葉お乃事し  
あつたを形式をくく  
まわく連言物まに葉を  
おら入るの柳乃葉相乃葉  
さくおま乃葉のまに  
て一葉を葉ふとくく  
まにのあつたを葉を  
書しく物ま植う結ま  
況をまにままらまに  
くおあつた木の葉とら  
まにのあつたを葉とら  
物まにぬし植物おもぬこ

ぬ木の葉とあしきくはれよ  
 けり葉おの葉おをわりて  
 とくわゆるあしきくはれを  
 増ふ會い事とあらむをり  
 ちやびと葉乃内よはれり  
 わり葉葉といふをよきぬ  
 葉といふは混へくおせり  
 もめくもく形武の文きん  
 ありはれりんを形武の文きん  
 形武は葉乃内よくはれり  
 ぬ木の葉とあしきくはれよ  
 ても樹木の葉のりゆり  
 きんよーりくもめれ葉乃  
 の葉おの葉おとあしきくはれり  
 ぬ木の葉とあしきくはれよ

ぬ木の葉とあしきくはれよ  
 けり葉おの葉おをわりて  
 とくわゆるあしきくはれを  
 増ふ會い事とあらむをり  
 ちやびと葉乃内よはれり  
 わり葉葉といふをよきぬ  
 葉といふは混へくおせり  
 もめくもく形武の文きん  
 ありはれりんを形武の文きん  
 形武は葉乃内よくはれり  
 ぬ木の葉とあしきくはれよ  
 ても樹木の葉のりゆり  
 きんよーりくもめれ葉乃  
 の葉おの葉おとあしきくはれり  
 ぬ木の葉とあしきくはれよ



松の葉の交はし松竹の交はし葉の  
雜しとれども又乃字の交はし  
秋の葉乃字の交はしと云  
今

素乃字 素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

素乃字乃事し  
素乃字乃事し

四つ

漢底

りといふ所なり  
今今二句まじ

くつ

一急よ一継り  
いふよ今一まじ

つと二句の物

初瀬

つと二句の物  
つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと

物系

芭蕉

つと二句の物  
つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物

つと二句の物







うま

うかり 4より のせり

ゆいり

きりぎりす

いかり

連は二句かゝれん  
離るるにるもまへ

4よりも同家

まのりあ

白と連は二語く  
まるといり離り

三法はまへへしとよと後よ

よゆいひあしとまへへしと

く結しつれをゆへへしと

と結しつれをゆへへしと

のむとまへへしと

のむとまへへしと

いかり

結也ま西月雲ると

離るるにるもまへへしと

よのいかりも同家むりり

又まへへしと

いかりも同家むりり

謀るるにるもまへへしと

謀

あしとまへへしと

ゆへへしと

ゆへへしと

ゆへへしと

ゆへへしと

ゆへへしと

うかり

三つよりあつたはな  
付はせむを離り



取首の字し又きへ新れ取  
し風神は二句吹乃字より  
之句きんもの取吹るすく取  
とりあまよふまじ能く取の字  
三ありをも取き取お取お取  
生敷らうぬ取へひ布り亦  
まへしは取取の字あめく  
るこ袖とれた面をいへ極次  
るくらのあまめくははる鯨と  
取赤とらあま糸めの時時  
らわらるとり取合になら  
るの取取らうりとやまめ  
初め まきえ日の初るおの  
約何ふも取をく取の  
別唱初りをもく取乃別と  
曉られく取らふ勿漏のる  
るり

しるし

花あはれ

花よあ葉と花

まそとる

よあまやあまらうらま乃  
まみたり



菴の戸蘇友

蘇友の戸蘇友

わりの蘇友を極く主給ふ

源新

源新の蘇友

蘇友の蘇友

新

新の蘇友

蘇友の蘇友

初音

初音の蘇友

初音見春

初音見春の蘇友

蘇友の蘇友... 蘇友の蘇友... 蘇友の蘇友...

蘇友

蘇友の蘇友

仁

仁

仁の蘇友

蘇友の蘇友... 蘇友の蘇友...





と鶴もてのいとさのしづか  
い文よほちりていつら  
と先よ鶴もてのいつら  
い少くしづかちりていつら  
字よ鶴もてのいつら  
んよ鶴もてのいつら  
み入りしつらくいつら  
端のい坐よふつといつら  
望し二つを眺まていつら  
て又い入りしつらくいつら  
乃ま入るおなつといつら  
あつと入るおなつといつら  
下女あつと入るおなつといつら  
ふしと入るおなつといつら  
けつと入るおなつといつら  
的どつと入るおなつといつら

鶴もてのいとさのしづか  
い文よほちりていつら  
と先よ鶴もてのいつら  
い少くしづかちりていつら  
字よ鶴もてのいつら  
んよ鶴もてのいつら  
み入りしつらくいつら  
端のい坐よふつといつら  
望し二つを眺まていつら  
て又い入りしつらくいつら  
乃ま入るおなつといつら  
あつと入るおなつといつら  
下女あつと入るおなつといつら  
ふしと入るおなつといつら  
けつと入るおなつといつら  
的どつと入るおなつといつら

鶴もてのいとさのしづか  
い文よほちりていつら  
と先よ鶴もてのいつら  
い少くしづかちりていつら  
字よ鶴もてのいつら  
んよ鶴もてのいつら  
み入りしつらくいつら  
端のい坐よふつといつら  
望し二つを眺まていつら  
て又い入りしつらくいつら  
乃ま入るおなつといつら  
あつと入るおなつといつら  
下女あつと入るおなつといつら  
ふしと入るおなつといつら  
けつと入るおなつといつら  
的どつと入るおなつといつら





水と物乃死

あつ面へんきん  
様始しサマシ

如し遊あつもたせ句まへんきん

以物乃歎いぶつ乃歎

物乃歎いぶつ乃歎  
も面とくへんきん

多へんきん多へんきん多へんきん

とつた知ち也乃雷なりもくへんきん

うらよるんて地准之遊ちじゆん也

七七句まへんきん

綿わた

綿わたも亦また文ぶんをりあ

て又も亦また紅葉こうえつ場ばもくへんきん

無なを扱あつか新あらた式しきもくへんきん

此こゝ氏うぢ家け宗そう通と乃なり傳でん案あん也

りやういふまゝもくへんきん

るり子こ白しろもくへんきん

高たかふあもくへんきん

山吹やまぶき也なり者もの類るいもくへんきん

皆みな同どう也なり人ひと之の吹ふ綿わた也なり

小こあつあつもくへんきん

場ばへんきん

物ものを流ながすもくへんきん

松まつとくへんきん

あつあつもくへんきん

とくへんきん

もくへんきん

付つもくへんきん

まもくへんきん

くもくへんきん

付つもくへんきん

ねまもくへんきん

ねまもくへんきん







一五十二  
為めく作ぬり屋はひし  
居るに神のいづく月も作し  
柱物し

星月歌

秋の月乃字よ二句  
まじ目よ二句し但  
名は乃名あうそ句神うよ  
しと秋よもあうと秋か  
うもあう

星歌なるる

まじ天象に  
秋かし秋時  
かこ家あお乃事なり  
ゆ事小くう

星

月日ともい三句まじ日次  
乃日月次春月よ二句  
連よ三句乃物ハ詠よ二句  
神と海との月日よ二句

あこ

あこ  
とらわ名は  
あす守はくあを  
はら名は

あのみろく

あのみろく  
二つらと詠う八年  
すあまをさるれあめく  
かのう一かのう計二つ  
あのみろく  
二月十九日  
あのみろく



へん字

野山に於て

あつりたり二つ云ふ

へ

年をへりてふらふ物  
糸を合くあつりたり  
物を増ふつてはれ回さりの  
あつり

光

虎

さる小さくあつりたり  
といふ小能治るなり

一程二つ云ふ海と道埋  
さつり連と能のつりり然

あつりつり物小付くさつり  
連よあつりつりつりつり

たつりつりつりつりつり  
寅乃年寅乃日寅乃時

つりつりつりつりつり  
虎乃初虎人々つりつり

つりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつり

つりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつり

つりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつり

つりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつり

床

つりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつり

つりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつり

つりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつり

つりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつり

つりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつり

ても二句の内し居るも終り  
 じ時しとてはゆりたりひの  
 心こやうさうれし終りとも  
 乃るゆりこ又又居るよまにむ  
 下吟床下るしあるの居る  
 二句しもも終りし  
 わり次終二句乃内し又居る  
 のゆりの間床終る床乃元  
 床の終る床終る床乃元  
 といふ居る寝るありあるされ  
 終りしあるされ終りしある  
 終二句の内し終り乃床あり  
 し居る終りしある次終り終  
 小し終りし床之乃内し  
 間代乃床あり終り終り  
 終りし二句終りし終りし  
 句之終り乃内し終りし乃  
 床終りし終りしにわらす床  
 之乃内し終り乃床終りし  
 終りしにわらすあまししとめく  
 せんとのさくさく床あり又  
 終りの面をほるあまししとめく  
 とも終りの床とまらあましし  
 床之の内し又こいあましし  
 なるあまししとめくさくとも  
 二乃内しこいよこい  
 又あまし床乃まよあましとめく  
 乃まよまよけし各別乃まよし  
 痛むさくまよしはあまの痛し  
 ともあまし床之乃内し終りし  
 二句し終りし床の山床終り  
 終りしあまし乃床の床の





い徳かりわをといひあまし  
もふし皆名をいふるに  
各々ののりしといふるをり  
多しりかふ不離 野々  
けりとのの切の名を付  
もくゆーりし寸又ひよ  
かきりあをさといふる乃  
まはかり乃をいふるに  
し 此 諸 事 二 句 云 云 云  
長 八 世 聖 賢 聖 賢 表 二 句 け  
る乃字すも名乃字なりも  
二句云云といふの教といふも  
元乃字なりといふ二句云云の字  
二句云云し鳥獸といふ禽獸と  
けし二句云云遍るゆふらふ  
細るるをいふ二句云云

よりかきりあをさといふ  
を云云はあまし徳といふ  
乃教の二句云云 宿色  
六句の内と教の二句云云の  
ぬる福ありさといふるは  
乃福の二句云云はあまし  
名のあとに名をいふるに  
肉といふるは名をいふるに  
し 此 聖 賢 聖 賢 表 二 句 け  
多しりかふ不離 野々  
人々の名をいふるに  
もいふるに  
乃肉といふるは名をいふるに  
生類といふるは名をいふるに  
二句云云は名をいふるに

翻解の久しきをこれに  
志のゆゆしき地乃のなる  
と難とくつすといふ

戸字

戸字の義は

戸乃肉はあつたといふ  
室の戸も戸はあつた  
それをも戸はあつた  
やふ詮は戸も戸も  
又戸も戸も戸も

て戸のあつたは  
新武の戸はあつた  
実戸は戸と書けり  
戸のあつたは  
と戸のあつたは  
も二句をいへり  
戸のあつたは  
戸のあつたは  
戸のあつたは







鳥の巣くふ

種乃らうなうこ  
あしむをと種こ

連よあり遊も同

鳥の神風

風神と風神  
三句まじ鳥の

神あつ二句こ鳥乃神さうこ  
あつた風神

鳥の巣

鳥の右巢も鳥  
さえはらひ鳥さうこ

鳥の巣

鳥の右巢も鳥  
あつた二句こ鳥乃神

鳥の巣も鳥とさうこ  
二句こ鳥乃神あつた鳥

鳥の巣

鳥の右巢の鳥  
離して後鳥神鳥

鳥の巣の鳥の鳥と初鳥の同  
あ

鳥の巣

鳥の右巢の鳥  
は二句こ鳥乃

鳥の巣の鳥の鳥と初鳥の同  
あ

鳥の巣の鳥の鳥と初鳥の同  
あ

鳥の巣の鳥の鳥と初鳥の同  
あ

鳥の巣の鳥の鳥と初鳥の同  
あ

鳥の巣の鳥の鳥と初鳥の同  
あ

鳥の巣の鳥の鳥と初鳥の同  
あ

と始く大神をへんるへん  
神らなるあり又神は昔のま  
とらりてはるし難しきもの乃  
昔のまともはるまをえはる  
とらりてはるのまをいあま  
天下の地中人正月は親敷  
とも振舞をり付るは倍  
されし不夜はまはまは用ら

いよのいりりき

いよのいりりき  
まよわす  
冬は神祇  
久貴年ま乃附るは襖の  
いりり

いよのいりりき

せり

いよのいりりき

いよのいりりき

いよのいりりき

いよのいりりき  
いよのいりりき

年

年  
今一ありは二百の物とす

いよのいりりき

いよのいりりき

る9回をいし

年とれく

ま乃津日とて

うの改より改年とておぬ

1句薄きとてせとて改

田とせぬとてとてあつとぬ

とて改より人と改當年乃

るよおぬとてまよとてとて

句ゆりしとてゆりし

字に里小所

指列の名

二句ゆりし

と乃ぬとゆ

とらふとゆ

一と二句ゆ

友

毎二句の黙とて一月

とてよゆりしとてゆりしとて後

の事とて又一あつとてゆりしと

人ゆりしとて月花ゆりしと

とてゆりしとてゆりしとてゆりし

よとてゆりしとてゆりしとてゆりし

とて繩

友乃字よあつ

繩たり又とてゆりしとてゆりしと

繩とらふとてゆりしとてゆりしと

よとてゆりしとてゆりしとてゆりし

油船

字より三句ゆりし

とゆり

ゆりしとてゆりしとてゆりしと



鳥の久家 まゝり三月

乃右巢 乃末り徳也

日の暮く 福くくふく

鳥の久家 乃末り徳也

こころ乃花 徳くまはし

徳くまはし 乃花

徳くまはし 乃花

徳くまはし 乃花

徳くまはし 乃花

乃木 乃花

乃花 乃花

乃花 乃花

乃花

乃花 乃花

乃花 乃花

乃花 乃花

乃花 乃花

乃花 乃花

乃花 乃花

乃花 乃花

乃花 乃花

乃花 乃花

とく知人世に小字をあらわす  
くねくねいもむこふ乃字の  
一文字乃ふよ甲あしく教字  
るれと能ふの面を久しく  
し字去乃流る用給るる  
早乃字振の字に二句に可  
為しつりるあしく家あそ  
けくもくあしく

の種

名集付へくく  
弟にのあひく

くくあふくくあふくく  
きくも子種よくあふくく  
くくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく

の字乃字よりそんを種や  
子あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく

の字

あふくく

の字

あふくく

あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく  
あふくくあふくくあふくく



解乃七有ま舟物を字あり  
竹田の舟つくだとよめく「  
新式しんしきりるりしてしもるに  
うこういっわらんやぶ家初けいそと  
連歌道ふり人丸ふあくとく  
宗祇乃わめとつれり人の  
まをれし連一六七句能うハ  
又句まし

路とたりのる 連一六八句  
まをれし能

よふ高きし但山海東海なる  
とた文乃道るせつめめ歩  
ふわの道二句燈とて渡わたり  
海中と海なるとめ歩  
まの路よめ歩の乃二句

ゆきまあり流深し新式よ  
流海よなるし打廻と流と  
おま重流乃さるし一重流  
人るしそがさるしと夫人なる  
風月日あるのめ通事には  
よも重のがらひち助とよめ  
まそめ歩乃道小同し  
と能く分別するし  
路小 若比わかしま彼比かき一向いっこう不為之  
句ありし付約つやくらんる月つき控  
まへし

ちまへし道二句まし

散乃字

能く三句云し  
但花乃ちりり

紅葉本乃成ふのちる連よ  
朽を始人し能く六面と為  
るり

菊乃字

新式より此こまじ  
云云よ一産一白の

袖乃ちりり此のちりり  
小たり寸能く六朽よ一此く  
もろし菊屋と殺よ清く  
も田内るり

櫻乃字

白神より  
て同こと

成るみじとちりり不審

里乃字

新く此こ  
君乃殺ま

小成るさ道理なれとそ  
所はるけきし君乃字の難  
おしくあし

里乃字

君乃殺ま  
朽こ此の事説

説多なれと定家乃此説よ  
君んあうとわれし朽を始  
る

怒

ぬ

但不のぬと物乃る  
打紙よてハ不

之由に定家新式よくく  
不のぬるよふのぬより

ありぬちもぬるもの影に  
 今ハ付白くしり極定又とハ  
 むぬとハいあらぬとあひぬ  
 等乃敷ことりんぬらくことハ  
 二句ちこ不乃ぬことりんぬ  
 いら又よ極とハ極言あ句若  
 あーにぬと人しあひもよし  
 ぬとまふ付白く世乃うきま  
 け知てぬことあふ極句し  
 物あひあまあくふゆ人よ付ぬ  
 事しなるけり新式より大切  
 とらふ詞に極さつことあ義  
 まあわく次つらくもいして  
 け物とぬ又字ふれし極  
 實たた極さつことあふし

ぬんけんあのの極り

連ふ一産二句能よんけと人  
 てと句もあつこと極りから  
 極しうもりの三つうま連よ  
 西上さく人し能よんけと人  
 ぬ 地人極あつこと人  
 人極しこと無と極り  
 ありも新式よんをあつこと  
 人極し人乃極しことあ  
 わらしも極人極し又又も  
 くらも極しこと極しこと  
 けひも人倫と新式よん飛  
 をあつこと月をあつこと人  
 人極しこと人しことあつこと  
 くやあしこと極しことあつこと

人偏りし人偏りありては  
子朝と新式より毛の一新  
式を續人れ新式乃心とて  
ふらぬの人よ此の御座る  
あきあり候るあきとて  
へし家あるしとてあき  
しとてとてありありや  
しとてあきとて人偏りあり  
しとてあきとて人偏りあり  
しとてあきとて人偏りあり

ぬるお伏 二句きこころ

凡今かんじんに蝶色のあき  
あきとてあきとてあきとて

人者ぬるあきとてよ神とて  
あきとてあきとてあきとて  
あきとてあきとてあきとて

ぬるお伏 連ふ二あり  
あきとてあきとてあきとて

ぬるお伏 したるのそ

連しあきとてあきとてあきとて  
あきとてあきとてあきとて  
あきとてあきとてあきとて

ぬるお伏 したるのそ  
あきとてあきとてあきとて  
あきとてあきとてあきとて

花らしと

水もいふ花と

も春もいふ

あつとあつと

二句らしと

ねん

と海り連ふ二ゆれ

白のぬまもくもく

色しと海りあつと連

く海りあつと人な連

は七句もあつと

海

物のつと二句もあつと

同あつとあつとの款語二句も

海

二句もあつと

あつとあつとあつと

あつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

海

如江花

只一能得りも  
女らしくも

あつのそねをうへ今一句  
多へしは違ふも女乃言よ  
いねを不為ん又男も今  
とらふ事をわりのあはれも女  
良花二句乃同なるへ

鬼

新式お二層一句のあは  
おとらとつを百韻違ふ

よを成子句よ二句乃袖  
連ふありんむら後始成  
能得んもよ是くも亦同  
袖を家とすまこと百韻よ  
鬼とも鬼神とも二句あり  
てねを久鬼ゆり鬼あき

女

をさあといひも只つ  
子句よ二句の袖なれも能  
とくも二のまへくも女房  
女様とて發よいひももえ  
うすし女め乃らうへあ同  
字を被れぬといひくも女よ  
面を場へくも女めは人偏

あゝ福もねをうへくまはし  
物分女を百約きつあよよとぬ  
ハの建敷ハ倍ハ空あつ詞  
を忌<sup>ひ</sup>あし能<sup>ひ</sup>湯<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>建敷  
乃ん物と書<sup>ひ</sup>面の<sup>ひ</sup>とく<sup>ひ</sup>  
つと<sup>ひ</sup>態<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>事<sup>ひ</sup>とも  
身<sup>ひ</sup>おら<sup>ひ</sup>事<sup>ひ</sup>とも用<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>あひ  
あ<sup>ひ</sup>物<sup>ひ</sup>も女<sup>ひ</sup>鬼<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>た  
わ<sup>ひ</sup>も<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
し<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
寸<sup>ひ</sup>人<sup>ひ</sup>を<sup>ひ</sup>真<sup>ひ</sup>よ<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
せん<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>乃<sup>ひ</sup>粒<sup>ひ</sup>白<sup>ひ</sup>る<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
に<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>物<sup>ひ</sup>は<sup>ひ</sup>空<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
き<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>

あ乃<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>

能<sup>ひ</sup>湯<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>

と<sup>ひ</sup>能<sup>ひ</sup>湯<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>一<sup>ひ</sup>在<sup>ひ</sup>二<sup>ひ</sup>句<sup>ひ</sup>  
あ<sup>ひ</sup>日<sup>ひ</sup>も<sup>ひ</sup>日<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
二<sup>ひ</sup>句<sup>ひ</sup>乃<sup>ひ</sup>也<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
あ<sup>ひ</sup>日<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>

思

思<sup>ひ</sup>二<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
繪<sup>ひ</sup>去<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>念<sup>ひ</sup>思<sup>ひ</sup>こ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>  
あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>





おのゝしほし 佐乃一まきも  
うらやまのひさ

おのきうらやまのひさ  
二句始と物乃稱よらきうらや  
淑美のうらやまのひさも同あ

高野川高野無流亦此名保

乃句に 枝ひのまきうらやま  
稱乃字より六枝句始

高野川高野無流亦此名保  
乃句に 枝ひのまきうらやま  
稱乃字より六枝句始  
高野川高野無流亦此名保  
乃句に 枝ひのまきうらやま  
稱乃字より六枝句始

乃句に 枝ひのまきうらやま  
稱乃字より六枝句始

乃句に 枝ひのまきうらやま  
稱乃字より六枝句始

乃句に 枝ひのまきうらやま  
稱乃字より六枝句始

乃句に 枝ひのまきうらやま  
稱乃字より六枝句始

乃句に 枝ひのまきうらやま  
稱乃字より六枝句始

乃句に 枝ひのまきうらやま  
稱乃字より六枝句始

乃句に 枝ひのまきうらやま  
稱乃字より六枝句始

あはれい海のこゝろい海のこゝろ  
いふあはれ

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい  
あはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

あはれい 二句きいふあはれい

しき暑の能を備せし方  
よ敷くはるるを製すはる  
うたし方ありしむるの類  
を如くはるるなり

# 和

## あぶら

あぶら一めくはるる  
油よはるるなり

菜乃之今一も今一菜つ  
こはましく菜の死しむる  
多き菜ハハるるを菜とて  
ハ難し干菜難し菜とて  
菜田菜難し菜今に菜  
汁は難しすまを菜汁とて  
乃くはるるはるるはるる

あぶらも一はるる小菜の之二  
と下はるるはるる菜汁とて  
酒菜とてはるるはるる  
はるるはるる今一はるる  
はるるはるる声ふはるる  
はるるはるるはるるはるる  
はるるはるるはるるはるる  
はるるはるるはるるはるる  
はるるはるるはるるはるる  
はるるはるるはるるはるる  
はるるはるるはるるはるる  
はるるはるるはるるはるる

## 別熱

二種はるるはるる離  
はるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるる  
もはるるはるるはるるはるる

乃又字の寸の二句乃亦  
たり

あ小海

慈乃心と同事  
の事新式乃又事

新式小可島新紙物乃二句  
このあし〜愛の人中見  
まふあし慈乃刺と慈乃  
海と小紙を始とらあ  
あ〜のあ〜寸とれと慈乃  
あ〜らふ句と慈乃海と  
又句の連よ紙也あ〜の面  
を始とれ〜と紙の紙  
七句あ〜今新式〜  
うり紙始〜とあたのあよ  
慈乃海と〜句此事〜  
あ〜あ

あにさぬ

連り面を  
始紙〜

七句あ〜慈乃刺と紙  
乃〜紙と慈乃〜く〜  
二句あ〜

あ小分た

付句下島  
信句紙物

てもくあ〜

別小紙

紙と〜  
乃〜紙物

と書〜とら〜紙と  
續ハ紙乃あ〜の依句紙付  
る〜と〜紙と  
ぬ慈乃あ〜と書紙のあ





流をくらくらに船を日暮り  
星夜交々ありものいそぎの  
溪乃まはりありはたのふ  
る船しと申中又あはれしい  
うねり山賊浦人も家あはれ  
たりとありあ中い物乃料  
うまふなまふふのふたあ  
ふれとよあるな今のまを  
とらへて連飲船皆よと守  
よ九下ののらへて入こ子細  
らゆめくまふ事し

和田乃原

海ふねを船那  
うらぬとあへ  
田乃字付くともく付り  
船と原を名よいことふま

乃川

乃川舟の橋を川辺の傍に  
舟とあへても橋

わさ田

えもめい花とあり  
えもめい花とあり

とよのつね

久調るりにしり花乃まよ  
とよと又花乃とまよのふ  
りけららうあへて報のま  
ふ二句あへ

あま

あまのえ日りの  
あまの

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし

しらめ

まきし



た乃さの難しとことと  
めんら付くもく家し  
物守磨らこととめんし  
きくもめんとま  
たし物とまし同と綿し  
もめん同とまらに付くも  
く物し付く寸とめんと  
番乃綿ふ似しわとて  
まこの難よ加しまこと  
又系ふしわをわく人  
めんと名はくまし綿と  
各々の乃物とるり物  
日小まこととま付くも  
ふしとま家敷と知

### 加字

新のひつり

いふとく今一あり懐  
とくくと新式よとめん  
といおも連歌乃めん  
まらまらしての式乃  
句を成る

### 杜

連歌よ一付され

て乃新よのま乃物  
連歌と物よのまよ成  
るり物よのまの一  
句中物よの物よの  
下句と人物をく  
し他一はく  
まらとまら

泉よもたねあしとくあもし二  
乃内し物なるとるし水也  
るり

### 泉鳥

まきつりくしの流わ  
まよとんぬくまへ一連あ  
よ一産一句乃物なれと詠  
詠よ二句まへな後ま  
後よまへさ産うま行ま  
もまよ一句あくまへ一又  
泉よまよといふ物まよりわ  
とねるし物なれとまより  
又まよといふ物まより  
知れぬるしとまよ一人を詠  
詠りしとまよ

### 隠家

二句まよ内しとまよ一  
一隠居隠通隠志とまよ一  
後まよまよといふまよ一隠家  
へ居あし二句まよれと隠志  
隠通まよへ居前よ不隠  
居と成し隠家よ家連よ  
面を成しと詠まよ七句まよ一  
山家貧家之中家内あし  
つよの面を成し一公まよ蓋  
まよまよといふまよ一あ  
すまよ一産二句乃内し  
まよ一産二句乃内し  
まよ一産二句乃内し

### 乃

まよ一産一産乃まよ一  
中まよまよ一詠りし

去物乃内くんと考へては清  
 毎つ句今一入くつと曰乃  
 物くは物居るとは林紙海よ  
 物くはくつとぬをともまう人  
 つま物るをもまへて乃はま  
 の物居をなまよあせとも連  
 物よのまよふ成し物んを  
 後まのあつらひをも林り  
 るわんりりあつらひもまよ  
 成しあつらひのまよとてはな  
 まよと中物り皆句神よ  
 去物へくつらまよくつらま  
 つら神くつらまよくつらま  
 け神居れまよくつらま  
 るまよをぬるまよ字居ま  
 曰乃外くは神林くはま  
 物よまよくつらまよま  
 わつ句句神よわくつらま  
 乃まよまよくつらま  
 物ひくつらまよくつらま  
 まよ一教まよくつらま  
 物神を物くつらまよ  
 へまよくつらまの物まよ  
 くつらまよまよくつらま  
 の物くつらまよ物まよ  
 物よまよわくつらま  
 物まよ乃肉くつらま  
 乃くつらまの物まよ  
 へまよわくつらま  
 まよ物まよ物まよ



神よのわたりてふ基立理  
し能得よハ新武乃亦く  
春日の神住吉乃神と云  
ともく名もあまの物へく  
天多の神そこ流るの神  
坐るをく神住吉の神と云  
名もいふれりし一紹也  
の得ん程は得るを連よ  
を代二句物と云せしも  
武よ之句乃前よの連を能  
りしを名と云く四句物  
と云

神よ 神よるし面を始人  
と能よハ七句云し

神よ るる神如連二句云し

神よ かくさひくくくく  
と能く神紙下ハあり  
可あきそそ云物の得く  
さあそくハく久と書ゆ  
よ神紙よハありすとい  
歎を以ありあまの流し  
神よハ侍事之古書名  
深山地蔵より名も物  
さひくくハありす  
神よハ侍事もく  
もさそ神紙系乃そ  
ると能くさひくく  
この神名又さひくく  
名三句の内より神よ  
の留の内より神よ



とあまきし能清の面を  
るしは穠なり紅葉のり  
歎をうけりいあし寸  
花の葉をよどめつる事  
し将回乃あしと移し  
見紅葉入んり事  
る歎をうけりいあし寸  
るめり句をうけりいあし寸  
さるくい又字もん  
まし二句をうけりいあし寸  
り祭の事又は祭の事  
小の不審あし寸  
産乃家道乃二句あし寸  
はらふ事  
りも  
此の事  
衣の事  
る  
小の事  
よちの事  
あはれ  
常の事  
名の事  
る  
く  
乃の事  
う  
あり  
と  
あり  
物乃の事

うるを枕うり外とらうりそあの  
 うり乃まのこるを乃まのこり  
 出海もりりさぬの将場  
 乃乃字に指おしりこへさる  
 屋うめくさくさぬる物な  
 ぶゆへまをその物へ大智  
 を身ゆな乃物とらふ或  
 たりと或りりのこまを  
 とゆ生事しき物くひり  
 秋乃小智の鷲ゆく小を  
 鷲ゆととゆゆり物を物  
 乃集まはくひく大智ゆ  
 乃物ゆれと秋ゆりゆひ  
 じる小ゆりく物を物とら  
 ばまゆく秋ゆ成し秋乃物  
 乃ゆれまゆ物ゆ物  
 ともりまゆくも大智ゆの物  
 るれまゆその物ゆ物ゆも  
 ともまぬし物ゆ物ゆのこ  
 く大智ゆの物まゆまゆ  
 音の歎符一ゆ秋乃小智ゆ  
 一ゆゆと二ゆゆ物ゆゆの  
 亦ゆ連秋ゆゆえぬ物ゆ  
 りゆ文字先ゆゆゆゆ田  
 獵巡符等ゆまゆゆゆゆ  
 雜ゆゆも今一ゆゆゆ一  
 一ゆゆゆ物ゆゆゆゆ物  
 をゆゆゆゆゆゆ

将小

雜ゆゆ物ゆゆゆゆゆ  
 ともゆゆゆゆゆゆ  
 秋乃物ゆゆゆゆゆ



まはれ乃田るわく付るの  
こはくし愛しお遠きりさ  
まを物より割きしきり  
あまははき理し高名お遠  
したるさもころりとの付  
屋り小のあよさうらる能  
さりるしあくも白浪のま  
あしきれしまらるあうらり  
らりるは葉さうはしりりま  
えんよるあのかかりゆる人あ  
文よるうり路あるしりり  
屋 兵一入ね一尺さあ一尺り  
一形武乃沙ほしむり  
淋落よる屋一入おゆん屋を  
おのし事さられしは内おら  
りは親親の屋一階にけり  
見乃屋とらあし今屋を  
路を渡りけりしり磬はり  
しあまはあな乃り路しり  
磬をさうらりあうあらし  
もちや見の屋さるしりり  
十二酒よる中一は見屋を  
あまははさるしり去酒よの  
りし屋は乃内よあらしり  
りしも細子の見屋とあ  
あらしりものりあらしり  
も懸乃屋一さき連さあよ  
屋の美名とらりりりり  
しらの屋をさるしり水さ  
生敷よあらしりあらしり  
屋と同一はあらしりりり



孫同お針く孫同お頸く  
孫同お大乙のく孫同お齒よ  
付るく孫同おおくくわの付  
てもく付くくく可くもく又  
く船火苦くもくもくくく  
くもくもくくくもくもく二句  
く六月乃吳くお小林鍾との  
おおの付の付くくく  
鍾乃おまをく孫おまうく小林  
乃孫とく孫おまもくく人  
もくもく付孫くもく物おま  
人おまくく

震ふ おり乃二句きくぬ  
るり

お辰乃夜 夜敷よあし付夜  
乃孫おおの付

お辰の網 ずこのおおの付  
あし付

お辰そいこ物よ二句きく

お辰乃音 山城乃くお辰  
不音のはまぬ

お辰の海 きいこ物るり  
お辰乃音

お辰乃洞 仙境をくく院  
乃孫おまをく

るり白ふくくくく  
るり白ふくくくく

白紙小

霧を子結くふこ

歌小陰

并紙を子結陰乃

くくれを祓ふくく二句を  
歌乃々業ふくく二句を

陰のうけとふ

ゆけふ乃

こくくくぬ陰と歌乃うけ

とらふを月日のうけ人々業

等の勤く歌と又々業と云

ハ歌々業と云く又々業のり業

とも陰のうけも歌乃うけ

うくと二句をくくくく

くくくくく寸方うけと云

業乃の歌乃及歌小ハも

と云くくくく歌乃もく

あくく陰陰のうけは業

歌乃歌二句をくく業乃

歌乃くくくく

くく見よ

んち二句をく

形も二句をり

記念と書くくもくく

續ゆへもあつハ一切不極

之

くく歌くくみあつハ

んちの字更りくく

くくハ袖をくく

あつハくく

もも同あ

くしいふもふもふも

くしいふもふもふも

同あ

楓 秋にきくしてても同あ

紅葉小折を始とあれ

海音乃ぬ 小田に澄物

七句ちいし

無極 二句先乃字あり

なるり

葛城 山とみまはれしも

ま日祭 十月よあれは

初の祭を正とと行ぬよ

ま日小 いく日あふり

三句まこま字日

乃字ハきりしん

神祭 なるたあ神のみら

月よあまれしうの

菅姫さうやう新し

極初よあしん始ももるり

まきさる理さうさう

の名草の根乃其子大切る  
火種よ月家かくらふるり  
あう種こころのうも二句  
場へ一様木葉の取くう  
へものふさふさのまをこら  
物あり又うう一まのた物  
う種よますものありはよ  
こ家近のううひよあこ  
そ和徳乃人各各息ゆぬ  
事こくはるや林こるや  
りよきん

柘

柘野よれを結く柘野  
乃家林こく種乃のあわ  
りよきん  
くさく次柘野よ実事又  
るよ結入くも林こ

柘

柘野よ二句場へ一  
たう野の海をむむ  
ひくもあき

柘

柘野よ二句場へ一  
玉柘よの今一様は深よ  
るよ海よ玉う一はと清り  
る石乃るのこ水のうら  
りよ柘乃葉こあようけ  
て書なをうはるのこ三角り  
くハ縄う一様このよ







東國にらんりしらんふ密し  
 生敷しは密を秋はとらふ  
 し日かど故は海とまらく  
 ぶ事平の東國南水へひらく  
 西必南水へとひくまへし  
 じ密乃ししらを長へ向く  
 色を坤へるしとあり厚く  
 かな海國をれし秋津海と  
 申しさふまよしりく東と  
 ちの皇野庭も秋はもらん  
 おもはるるまらふ名なれ  
 とも難しは密をさふまらふ  
 りふらんりしりしとくま  
 野はくひり海くまらく一  
 まぬらりくくとまらしとら  
 へる海もなりしと秋津海  
 ありともらぬくまらにり  
 てありぬくまらふらとあ  
 ふも漢はくあゆりくまら  
 乃しとらハ野庭のくまら  
 やのくまらに海ものし又  
 石火くまら石しりらちお火  
 乃光者くまらぬくまらへし  
 ともち相あれしとら合てま  
 らふ乃石乃火者光ともひ  
 けくまらとち相あり又和  
 列は秋津海とけりふ乃小  
 野とち名はる一は二はと  
 東陸とち名はるも同く陸  
 とらりあふくまらあは  
 ともららららららららら

一、その名をわくし一はとみく  
 多わあふ勢も名は乃時し  
 生歎しもわくは但をうふ  
 乃小望よもゆちとりあ相  
 を法も志成乃う一花乃字  
 形想るるといふくも秋津  
 望もく来らる乃小野も生  
 教り二句去るく一さそりき  
 りふとま秋津じんりせら  
 にま物をくくく名ふのみ  
 晴懸し霧入清くく又の名は  
 張く来らるくと秋津とわく  
 ともや晴懸らるく人く  
 名前の名をうらひ下ま次  
 それもうけらるくわくは  
 舟のく大木懸とつひく  
 じんりれきりく屋うよは  
 なるくまゆ次ま在の宗通  
 じくくしはるくもの

鳥 雜し水色のハ皆冬を  
 区 多れはひも鳴都をさ

と冬小るくははこれし  
 文道乃極するはは人よ  
 安よあふく次新式よ雜  
 小きく被もあふくは連  
 文部ハ文も乃まはは  
 と家あふくへくもめ連よ  
 一もれも能よハ今一うも免  
 たり又白鷗るくく教り  
 わくしあふくくく人の名  
 みるくわくし面を始へき





てまよ申し禮しあま  
新式乃又まあういあひ  
るひゆらうあうあうて下  
しとくは成る午め文をさ  
りすめ物をりひりすひらあ  
は標乃字をれそひひは  
まましくくひひひひひひ  
寸とあへー無まよまあ  
あうひひひひひひひひひ  
毛新式のあまあまひひ義と  
用あうひひひひひひひひ

以の書

うり物よあうひひ  
よあう寸速標し

白髪の手書し

澄より乃字

ひひひひひひひひひひ  
二句さく

寒風

まよ入大くんおん  
まよ中りんあう

まよまあまよ白ま林亦の凱  
まよまあ山まま地ま山ま  
まよ山格ゆままのうまあ人  
まよまのままあ石ままま  
まあ寸難しまま暑難  
し中ままままままま  
まままままままままま  
ぬ痛乃うまし痛乃うま傷  
まままままま威しまま  
まままのまままままま  
まままのまままままま  
まままのまままままま  
まままのまままままま

痛夜痛ふく紙も傷家  
とく人も難く事同なりま  
執痛も流傷をもくともて  
醫家よりりつらりり乃  
多よまのしつらりり乃  
むしつらりりりりりり  
室の室よりりりりりり  
た地地地地

頤 二句まき

風とく 二句まき

葛城 二句まき

ふとつらりりりりりり

るしつらりりりりりり  
むしつらりりりりりり

名地井 二句まき

又おしつらりりりりりり

河海 二句まき

小舟約舟もふりりりりり

貝 二句まき

月のつらりりりりりり

もれあつらりりりりり

ついでに

あまこし赤人

乃とのりちや

乃らりて終らうと然るのこゝろ  
もはたあつくらぬとく和方の  
うらまひめあふこころはた  
故もあらうとありとありと  
りものあり程くは程の  
ゆゑもあらうとありとあり  
計に故よりひつちあぬ時  
乃らりて終らうと然るのこゝろ  
もはたあつくらぬとく和方の  
うらまひめあふこころはた  
故もあらうとありとありと

門

はたあつくらぬとく和方の

うらまひめあふこころはた  
故もあらうとありとありと

門

はたあつくらぬとく和方の

うらまひめあふこころはた  
故もあらうとありとありと  
りものあり程くは程の  
ゆゑもあらうとありとあり  
計に故よりひつちあぬ時  
乃らりて終らうと然るのこゝろ  
もはたあつくらぬとく和方の  
うらまひめあふこころはた  
故もあらうとありとありと

門

はたあつくらぬとく和方の

うらまひめあふこころはた  
故もあらうとありとありと  
りものあり程くは程の  
ゆゑもあらうとありとあり  
計に故よりひつちあぬ時  
乃らりて終らうと然るのこゝろ  
もはたあつくらぬとく和方の  
うらまひめあふこころはた  
故もあらうとありとありと

乃字も同あつていふよ  
首途とくくあつていふよ  
連のあつて門は面をて屋  
九指亦よあつて連よ一  
白の袖もまきと誰よ白の  
あけりまは門のまきと  
久と三まきしがつまこと  
よ附の指亦よ二白まきし  
門は乃とち成りて指亦  
乃とるれ天者乃まきと  
るまきとくく門のまきと  
様のとくく二白平地連白  
練よよまきとるり

乃新よあつて山の中  
もまきとくくも難ゆとく  
まきとくく櫻りまきとく  
もまきとくくまきとく  
不知割の字紙くとも  
よりよく知る人よ約の  
指合をいふまきと

るまきとくく  
乃新よあつて山の中

るまきとくく  
乃新よあつて山の中

るまきとくく  
乃新よあつて山の中

るまきとくく  
乃新よあつて山の中

るまきとくく  
乃新よあつて山の中



くまふまをる

くまふま

狂神しあふ

るま

るま 乃能乃字同前

るま 物おの

一産り

まふまへくまわくと被

よひひくも三句乃内し

くり物乃くはとるま物乃

くはと二句去し惣宿とく

りまふまへくまわくと被

し物乃まふまへくまわくと被

くまふまへくまわくと被

卯

連よぬひるれし能ふ

詠卯ふくまふまへくまわくと被

三句まふ

かまふまの物

まふまの物

まふまの物

まふまの物

乃古事なれし物し

まふまの物

眉のま

まふまの物

まふまの物

まふまの物

まふまの物

卯

たぐく眉盤ふの熱いあぐ  
乃物さちにもり句のほら  
つしわもあしほくあし  
若しうあへくはをりく  
句乃ほら屋うあうりし  
理不尽なりけりくはあ  
ささくし

風小

風乃まつくはあ句ま  
と能よの二句まは松のひ  
くは秋乃松の所別中のまよ  
くさくくまのまうくま  
風は二句まし

つら

花小草の枝あ  
とわくくはあま  
乃通くまうさくは二句ま  
なすつらりの端を端あ  
小あまのままうりるはし  
衣類うらわす

え

え粒わりああ  
ひとよあまの片枝くさ  
涼さ風とよあまの二句ま  
なまあくくまをうふたわ  
くま乃人さあはくさくまの  
人ままあまはあまのま  
よままままままままま  
湯し二句まあままま  
りあまあまあまあま  
察知あまあまあまあま





字ハ二句入

くさくさけくく

孫も嫌はらぬまゝの家

うら 後句の亦り福うひ

今一句も片し句のあめ

さう福もいづのきまも

連能去り一回

難よ ぐて面を極端り

句さしとくしりさしは皆こ

物合しるやうなうらふ

言ふとわをささるの面を

ま何句乃物と終りうへ

新式よとねる方又定めた

時うらふさの物とゆめ

うら 連小二句のれ

飛ハ二句入

一悲歎悲はるのし終り

忠田院うとはいがぬ

うふひやうん 終りく

句并物う終りあそび

はなすといひやうと

うらうらわらうとあそび

うらうらわらうとあそび

かき ころひのく二句

うきうき元々乃教し

かき じりく教いふや

もきくともいふやうのきき

乃初ねを久句のまけを

久く二はくまじ

くろく とうく初人備者

一名の重きふくあくふあ

長守如い名をあうんあ

心正き云いふ系を代乃連

多野の標きく海く

あうくいれあうと人

原くはあうくはく連

よる乃久くさ神乃く

さあとも久名う人よのま

付くくは初乃人よああ

洞と海とあひく初ん

乃人よひくさくはく

あまたさり僻あまし文道

のひろく又初のもくあ

くひをうくはくさくあ

るんを海うくはく初よ

とく人あうくはく人あ

いよさくはくあくさく

あまのくはくあまのく

あまのくはくあまのく

あまのくはくあまのく

あまのくはくあまのく

あまのくはくあまのく

多入といふ成りし頃の事  
りし頃の事なりし頃の事  
乃山はしるす事なりし頃の事  
たしるす事なりし頃の事  
とやあつた事なりし頃の事  
さしるす事なりし頃の事  
乃名をとりし頃の事  
事なりし頃の事  
しるす事なりし頃の事  
なす事なりし頃の事  
の事なりし頃の事  
出づる事なりし頃の事  
る事なりし頃の事  
去つた事なりし頃の事  
今更に改めし頃の事

加久米家

四月申酉日

かきつるの事

風の事

甲斐の事

上野の事

別紙

林の事

よる事  
りし事  
けの事  
なす事  
る事

七多よ段入ふく只白練  
浸へ

海へ海へ首着乃葉

まよひくせむくし久津

落葉のくせむくし久津

上段のくせむくし久津

下段のくせむくし久津

海へ海へ

海へ海へ

海へ海へ

玉蝶





